

菌汚染実態からみえてきた 見落としがちなポイントと除菌方法

生活者研究センター

花王の調査によると、生活者の菌に対する意識は、ここ10年で高まっています。2008年に「家庭内の菌が気になる」と答えたのは調査対象者の58%でしたが、2018年は89%でした。菌が気になる場所も、キッチン、トイレ、リビングなど家の広範囲にわたっています。家庭内の菌の拭き取り検査では、実際に菌が多い箇所が明らかになりました。家庭内の菌の汚染実態と除菌行動から、効果的な除菌方法について考察します。

- 拭き掃除用洗剤に求める品質は、10年で変化
- 菌意識の高さと除菌実態にギャップ
- 菌数・菌叢解析からみる菌汚染実態
- 菌数が少ない家庭と多い家庭の除菌行動
- 除菌表示のある製品で、まんべんなく拭くことがコツ

【調査概要】

「普段のくらし・家事に関する調査」

調査期間：2008年3月、2018年3月
 調査方法：調査員による個別訪問留置調査
 調査対象：首都圏在住20～60代既婚女性
 回答者数：各645人

「掃除に関する意識調査」

調査期間：2018年7月
 調査方法：インターネット調査
 調査対象：全国20～60代既婚女性
 回答者数：827人

「菌数・菌叢に関する調査」

調査期間：2017年6月、2018年9～10月
 調査方法：アンケート調査と拭き取り検査
 調査対象：首都圏・近畿圏在住の家庭
 対象者数：2017年46人、2018年90人

検査場所：調理台、キッチン蛇口付け根、キッチン蛇口取っ手、シンク(排水口ふち)、冷蔵庫(取っ手・生ものエリア・野菜室)、キッチンスポンジ(掃除用)、台ふきん、食卓、ダイニングチェア、ダイニング床、ソファ、PCキーボード、スマートフォン、トイレ床、他

「掃除方法に関する調査」

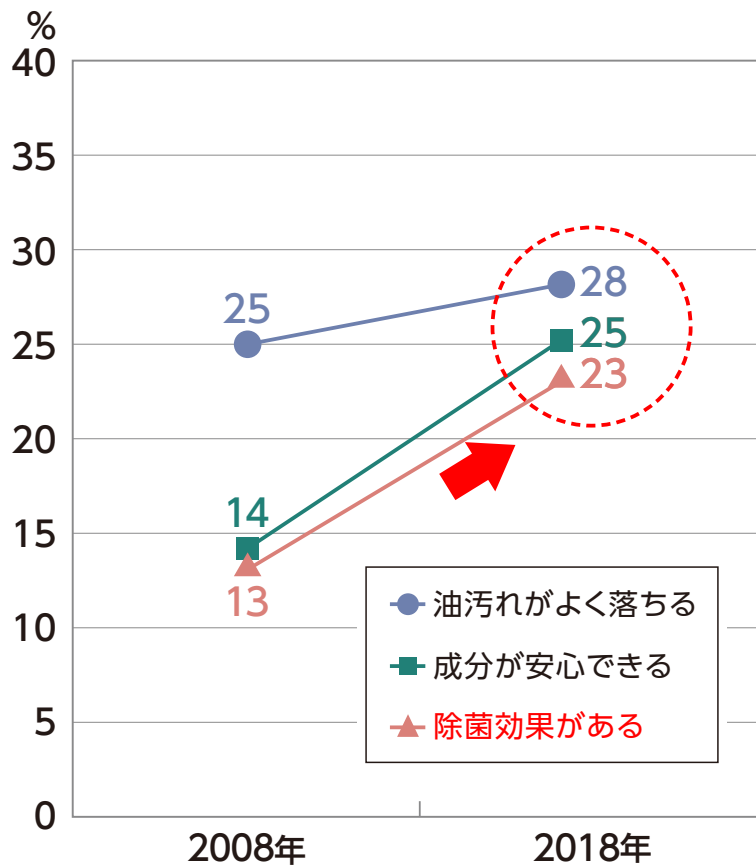
調査期間：2019年4～5月
 調査方法：家庭訪問インタビュー
 調査対象：2018年「菌数・菌叢に関する調査」対象家庭
 対象者数：10人

「普段のくらし・家事に関する調査」

調査期間：2019年7月
 調査方法：インターネット調査
 調査対象：首都圏在住20～60代既婚女性
 回答者数：450人

拭き掃除用洗剤に求める品質は、10年で変化

2008年と2018年におこなった「普段のくらし・家事に関する調査」の結果を比較すると、拭き掃除用洗剤に対して重視する点の中で、「油汚れがよく落ちる」といった洗浄力だけでなく「成分が安心である」「除菌効果がある」ことを挙げる人が増加しています(図1)。



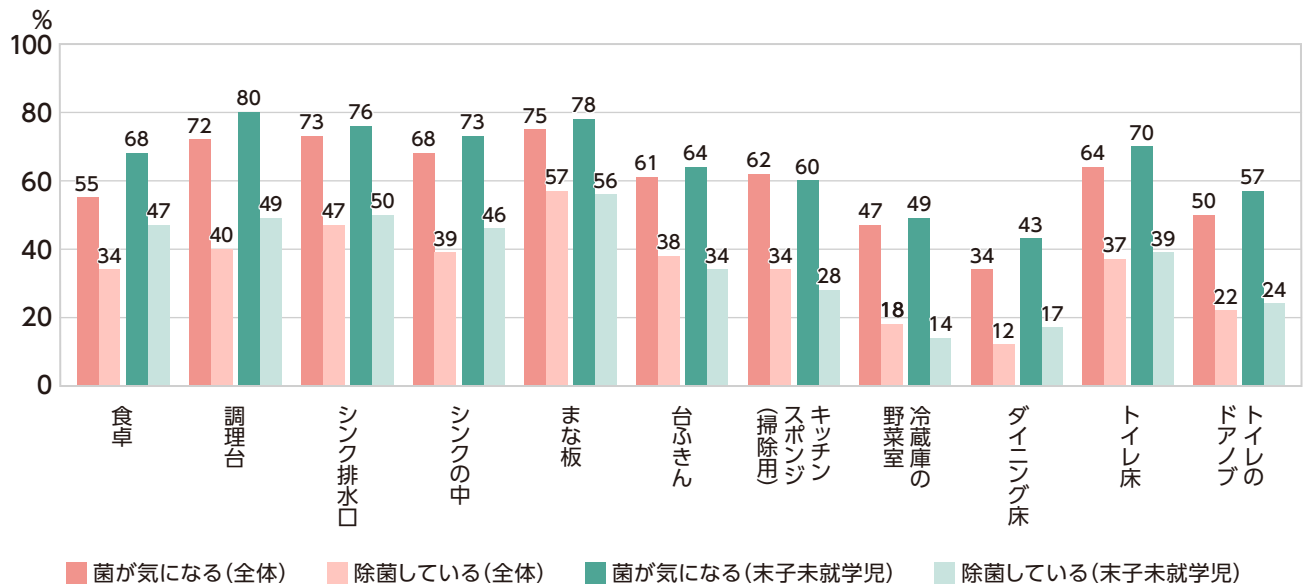
拭き掃除用洗剤使用 首都圏在住20～60代既婚女性
2008年 356人、2018年 261人(花王調べ)

(図1) 拭き掃除用洗剤の品質重視点

菌意識の高さと除菌実態にギャップ

20～60代既婚女性を対象に「家庭内で菌が気になる場所」を調査したところ、キッチンの調理台、まな板など食品を扱う場所やトイレなど、家庭内の広範囲にわたっていることがわかりました。中でも、小さい子ども(未就学児)がいる家庭では、多くの調査箇所において、より意識が高い傾向がみられます。とりわけ、食卓、ダイニング床など、小さい子どもの手が触れる場所については、調査対象者全体と比べて約10%も高い結果となりました。さらに、それぞれの場所を除菌しているかどうかを確認したところ、菌が気になっている割合と除菌している割合に差がある箇所が多くみられました(図2)。

「除菌していない理由」としては、「菌を気にしてもキリがない」「面倒」の他に、「やり方がわからない」「どんな洗剤が有効かわからない」といった声も聞かれました(表1)。



(図2) 菌が気になる場所と除菌している場所

2019年7月 全体:20～60代既婚女性 450人
未子未就学児のいる女性 102人
(花王 生活者研究センター調べ)

(表1) 除菌していない理由

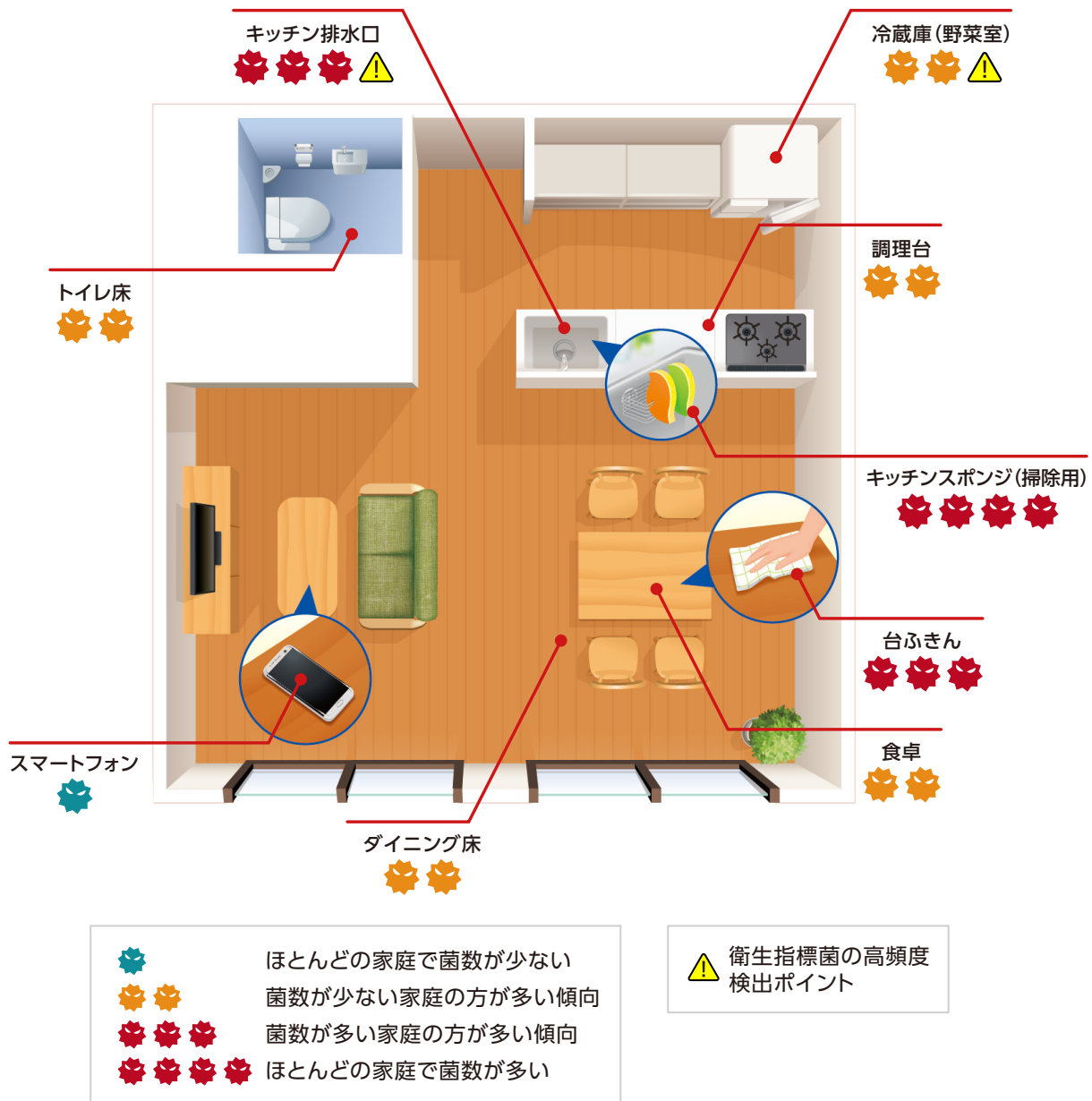
順位	除菌していない理由	%
1	菌を気にしてもキリがない	49
2	やり方がわからない	38
3	面倒	37
4	効果がわからないから	27
5	どんな洗剤が有効かわからない	26
6	実際に困ったことが起きたわけではない	26
7	菌は目に見えないから	25
8	いつすればよいかわからない	23
9	場所によって洗剤の使い分けがわからない	22
10	除菌しなくても大丈夫だと思う	21

2018年7月 菌が気になるが除菌していない 20～60代既婚女性 262人
(花王調べ)

菌数・菌叢解析からみる菌汚染実態

家庭内のどこにどのくらいの数の菌が付着しているかを調べるため、拭き取り検査を実施しました。その結果、キッチンスポンジ(掃除用)はほとんどの家庭で菌数が多く、台ふきんはキッチンの排水口とほぼ同レベル、調理台や食卓、ダイニングの床は、トイレの床と同レベルの菌汚染状態であることが確認されました。また、キッチンの排水口だけでなく、約3~7℃に保たれている冷蔵庫の野菜室からも、食中毒原因菌を含むことで衛生指標菌とされる菌群(腸内細菌科)が他の場所に比べて多く検出されました(図3)。

野菜室の菌の種類を詳細に解析したところ、腸内細菌科は、土壌や植物に生息することが知られる菌種と一緒に検出される傾向が見られ、このことから、腸内細菌科は土に由来する可能性が考えられました。



(図3)家の中の菌汚染実態(イメージ図)

菌数が少ない家庭と多い家庭の除菌行動

菌数調査をもとに、菌数が少ない家庭、多い家庭を再度訪問し、普段、除菌のためにどのようなお手入れをしているのか、実際に見せてもらいました。その結果、除菌行動に異なる傾向がみられました。

食卓の菌数が少ない家庭の事例

使用品と使用理由

●アルコールスプレー／キッチンペーパー



(67歳)

アルコールスプレーをかけてキッチンペーパーで拭き取る。キッチンペーパーは汚れたら捨てればいいので使い勝手がいい。ふきんは水ですすいただけだと雑菌が付いていそう。アルコールは蒸発するので、2度拭きしなくていい。食器にかかっても安心。



●除菌用ウェットシート



(30歳)

赤ちゃんがなんでも口にするので、ノンアルコールのものを使用。使い捨てなので、菌の繁殖がないと思う。

拭き方



(27歳)



ウェットシート(アルコール、殺菌剤配合)使用

手のひらで力を入れて、食卓の縁、四隅まで拭き残しなく拭いていた。

食卓の菌数が多い家庭の事例

使用品と使用理由

●台ふきん(水拭き)



(71歳)

その都度、水洗いをしながら、同じ台ふきんで食卓、調理台、シンクを拭く。いろいろな薬品が使われていて、洗剤は体によくないと思う。



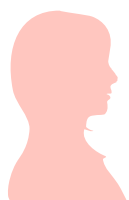
●アルコールスプレー／ティッシュペーパー



(27歳)

台ふきんは漂白するのを忘れてしまうので、アルコールスプレーを噴霧してティッシュで拭き取る。

拭き方



(28歳)



アルコールスプレー使用

指先でささっと拭いていたので、拭けていない部分があった。

食卓の菌数が少ない家庭も多い家庭も、多くの方が「除菌したい」という意識を持っていました。実際に行動を観察したところ、菌数が少ない家庭は、除菌表示のあるスプレーや使い捨てシートを使用している家庭が多く、拭き方も全体をしっかりと拭き掃除していました。一方、菌数が多い家庭では、台ふきんで水拭きをしている家庭が多く、アルコールスプレーを使っても拭き方にムラがあるなどの違いがみられました。

除菌表示のある製品で、まんべんなく拭くことがコツ

今回の調査から、

- ①菌を意識していても除菌していない箇所が多い。
- ②菌への意識が高いのに除菌をしていない理由の中に、「やり方がわからない」や「どんな洗剤が有効かわからない」などがある。
- ③菌数だけでなく、菌の種類にも気を付ける必要がある。
- ④食卓の菌数に差がある家庭では、使用しているものや拭き方に違いがある。

といった結果が得られました。

除菌は、除菌表示のあるものを選び、拭き残しがないようにまんべんなく拭くことがコツです。また、台ふきんやキッチンスポンジ(掃除用)など菌が多くなりがちな道具を適切にケアしたり、冷蔵庫の野菜室のように衛生指標菌が高頻度で検出された箇所は意識して除菌することが大切だと考えます。

●お問い合わせ・ご意見は **花王株式会社 生活者研究センター**

〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3 TEL. 03-5630-9963(月～金 9:00～17:00) FAX. 03-5630-9584

くらしの研究 www.kao.co.jp/lifei/

※掲載の記事・写真の無断掲載・複写を禁じます。